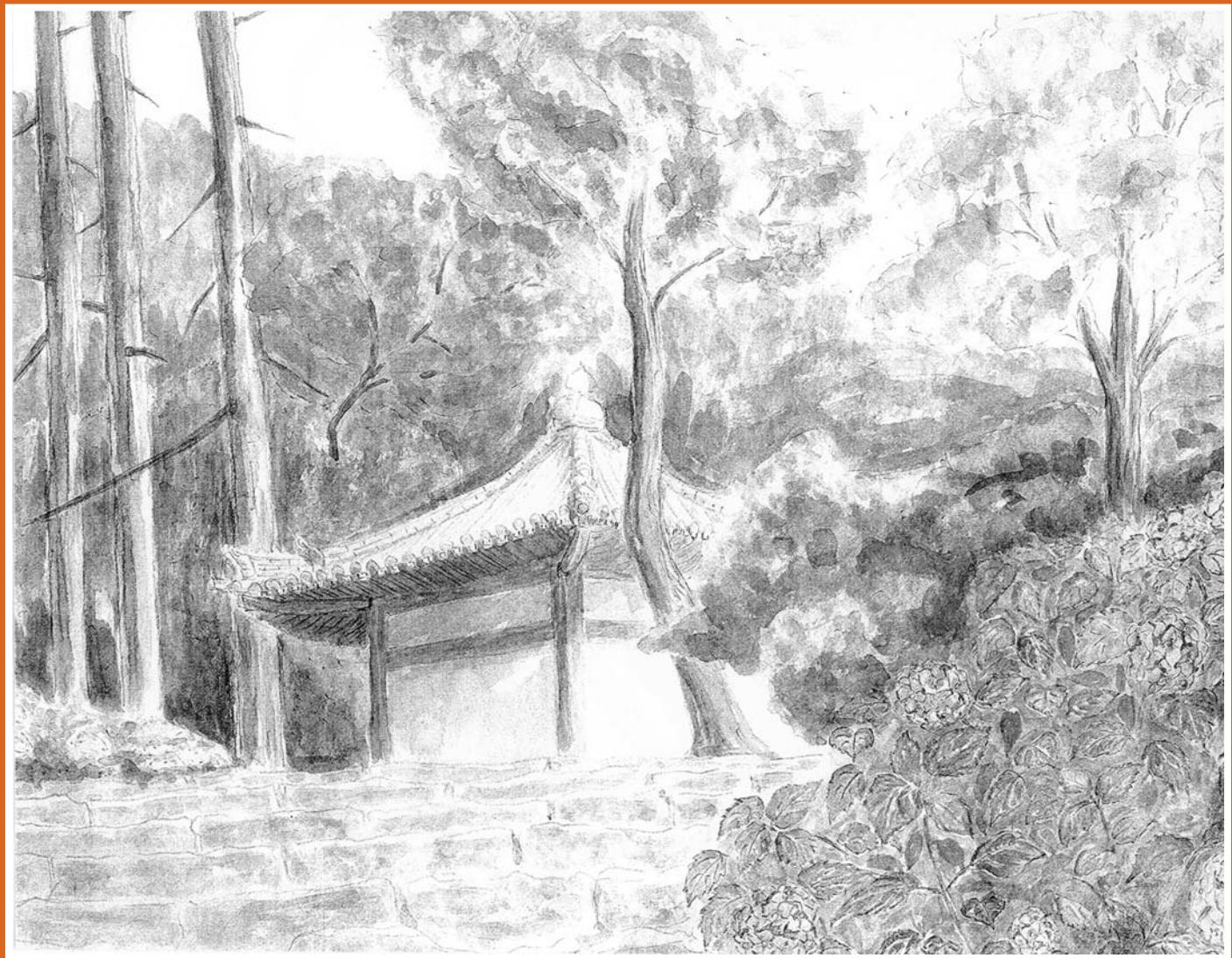


# やまさき文化

’16-3 \*No.35



穴粟市山崎文化協会

雑談 源氏物語  
| 桐壺から夕顔まで |

## ノーベル賞、三日続くか

宍粟市山崎文化協会会長 福岡久藏

短歌

俳句

草木の名前

ファインダー越しに見える風景

「かるた」のこと

出会いの中で

都多獅子舞保存会の取り組みを通じて

山崎町民合唱に参加して

歩き遍路に想う

秋の研修旅行紀行

民踊おどりに出合えて

私の芸能文化へらしさ?

感謝しながら

和太鼓を習い始めたきっかけ

新人の育成

和顔愛語

やまと子二十周年記念発表会に向けて!

石田 阳子

春名 芳子

中上 泰三

世良紗也果

永峰 輝彦

猪子 敦子

川原 勝典

浅田 茂樹

大西タツエ

野村 和男

井口 照子

下村 悅子

谷笪 摩弥

上山 成良

杉山 美保子

鳥越 茂

山崎 智絵

野谷るり子

浅田 耕三

第三十七回 春の芸能祭のご案内

事務局だより

編集後記

表紙題字



昨日（十月六日）の新聞に、大村智氏ノーベル賞受賞。寄生虫病治療薬を開発。医学生理学賞日本人三人目。日本のノーベル賞受賞は二十三人目。などの文字が踊っていました。

大村さんは北里研究所抗生物質室長時代に、ゴルフ場の近くの土から、有望な物質をつくるカビに似た細菌を見つけ、それを利用して牛や豚の寄生虫を除去する薬を作られたり、また、人の失明を防ぐ効果がある薬を作られたりして、発展途上国の多くの患者さんを救われたとありました。

その他、大村先生は土を入れるポリ袋をいつも財布に入れてもち歩いておられるとか、特許料の多くは薬の研究に注ぎ込まれているとか、故郷に美術館を建て地域の文化振興に貢献された、とありました。

山梨の農家に育った大村先生は「人のために役立ちたい」という一念が来る日も来る日も土を搔き集め、それを調べるという愚直な仕事を生涯続けさせてくれたといわれていました。川柳にこんなのがありました。

人びとに光 その人にも光

何気なく 踏んでた土に 触れてみる

「人のため」と「国民のため」似て非なり

そして今日。梶田隆章氏ノーベル物理学賞受賞。ニュートリノに重さがある事を証明。宇宙誕生のなぞに迫る。日本のノーベル賞受賞は昨日の大村先生に続き二十四人目。の文字が新聞から浮き上がって見えます。

梶田さんは岐阜県にある装置「スーパーカミオカンデ」で素粒子ニュートリノを観測し「ニュートリノ振動」という現象をとらえ、重さ（質量）がないとされていたニュートリノに重さがあることを証明され、宇宙の成り立ちや物質の期限を解明するのに大きな影響を与えた、とありました。今の私には興味や関心はありますがあまり見えてません。

本当は何もわからないのですが、いよいよ明日はノーベル文学賞だ。「三日続くの興奮はあるか。」と期待しながら床に就いたものでした。

# 雑談 源氏物語

— 桐壺から夕顔まで —

浅田耕三

近頃、Sさんという方と時々話を交わす。

「六月の隣保の溝掃除の時、隣りの前田さんに頼まれて『雑談 源氏物語』という勉強会を始めました。」そう言つたら、雑談 源氏物語って何ですか、と訊かれた。

「月一回の勉強会で五十四帖を頭からやっていたら十年たつても終わらんでしょう。ですからとびとびに本文をざっと音読してそこを一通り通訳しておいて、次に本文に付隨関連した雑談、裏話をたのしもうというねらいです。前田さんは英会話や手芸を教える多彩な人で、その生徒さん方が源氏物語を勉強したいという希望だったのでね。」

—— あんな長丁場の、いたって難解な物語を私などはとても読む気になれませんが。おもしろいですか ——

「おもしろいですね。」

—— 色好みの光源氏の行状記がおもしろいですか ——  
「いや、光源氏の相手の女性がおもしろい。それぞれ個性があつてかわいらしいのやおそろしいのやいてね。」

—— おそろしい女もいますか ——  
「いますね。六条の御息所<sup>みやすごころ</sup>なんぞ、難産の葵<sup>あおい</sup>の上に取り憑いて殺していました。  
すし、こっちは少々不確実ですが夕顔、これも十九歳の若い女性をとり殺す。」

—— 御息所というのは天皇のお后?<sup>とうごうひ</sup> ——  
「そう、ここでは天皇ではなく春宮妃<sup>とうくうひ</sup>、つまり皇太子妃なんですが、その夫はとっくに亡くなり、彼女<sup>きんだいち</sup>は寡婦です。賢明で教養豊かで又たぐい稀な美人やから妻に迎えたいという公達がたくさん彼女の邸宅にやってきます。源氏もその一人です。その求婚者達には決してなびかなかつた誇り高い彼女なんですが、

源氏の求愛にはあつさりと承知してしまいます。」  
—— どうして源氏には靡いたんでしような ——  
「そりや並外れた美貌と才能に恵まれ、そして帝の皇子<sup>みこ</sup>という高貴さ、さらには天性の口説き上手ですよ、源氏は。他の男なら絶対思いつかないような独特の切り口で口説きます。御息所はついその甘いしさやきにのせられて源氏を迎えますが、しかし一たん自分のものになったら源氏はもう彼女に興味を失う。源氏より七つも年長の彼女はそれで世の中のわらいものになったとくやみ苦悩する。利発で最高の教養知識を身につけていても、嫉妬や失望焦燥という人間の情念はどうしようもないのでしょうかね。」

—— そんな物語を書いた紫式部<sup>しきぶ</sup>という女性は一体どんな人生をおくったんでしょうかね ——

「彼女の実家は当時の権力者藤原氏の一族ですが、摂政関白になれる家柄ではないですね。父の藤原為時は世渡りはあんまり上手でなく不遇でした。やつと国司<sup>こくし</sup>に任命されますがそこは淡路の国で当時の淡路はさしたる産物もなく下國<sup>しもくに</sup>でした。為時は著名な漢学者でしたから得意の漢詩に託してその不満をうつたえ、ようやく一条天皇と藤原道長の配慮で大国<sup>だいこく</sup>越前の国司に任命替えされました。式部はその父について越前に下りしばらくして縁談が決まり京へ帰つて結婚しますが、年はすでに二十七、当時としてはたいへんな晩婚です。

多分父の不遇で結婚が遅れたのでしょう。当時のこの貴族社会は若い男女が結婚すると夫にまだ生活力がないから妻の父親に生活の面倒をみてもらう習慣でした。

こうして式部は結婚しますが、夫の藤原宣孝はすでに三人の妻を持つ四十を過ぎた初老の男で、おしゃれで少々軽薄さのある人物だったようです。」

—— それでは式部程の女性なら不満だったでしょうか ——  
「それでも夫婦には女の子が一人さずかり賢子<sup>けんし</sup>と名付けました。

結婚二年半程でその夫は死去します。未亡人となつた彼女はその六年後に道長に才能を見出され道長の娘で一条天皇の中宮として内裏に上がつている彰<sup>しょう</sup>

子に仕えます。

その頃源氏物語はもう書いていたようです。」

—— どんな人間だったんでしょうね。彼女は ——

「おだやかで人格円満といったような人物ではなかつたようです。人に向ける眼ざしは辛辣で厳しく、彼女の『紫式部日記』をよんでみると、同時代の才女清少納言も和泉式部も赤染衛門も無能でつまらぬ人間のように書いています。それから彼女はまた日記の中で自慢もしています。

子供の頃から自分は利発で漢籍の読解などでも父親を驚嘆させたと。まあ多分それは事実だったでしょう。」

—— あんまり好きになれんタイプの女性、意地悪でプライドの高い女のようですが、しかしそのぐらいでないと千年後も読みづけられる名作は書けんでしょうね ——

「おっしゃる通りと思います。」

—— それでは「桐壺の巻」からその雑談とやらをおきかせ願いましょうか ——

「帝の妃としては光源氏の母、つまり桐壺の更衣は下位の身分ですね。」

—— お后にも身分の上下があつたんですね ——

「とにかく徹底した身分制社会です。その上一夫多妻制だし極端な男尊女卑の時代です。最高の身分の帝には十人以上のお后があつてその後にも身分のへだてがありました。一番高位は皇后及中宮でこれはどちらか一人、次の女御

が五、六人、更衣は七、八人程もいてそれは父親の身分によって大体決められていきました。

大臣の子女は女御、大納言以下は更衣ですね。皇后中宮は特別の地位で内親王や大権力者の娘がつきました。」

—— 桐壺の父も大納言ですか ——

「そうです。しかしあとくに亡くなつていて、あとしつかりした後見人もなく力のない実家なのに帝の寵愛が並外れて深いため、他の妃からいじめられます。」

夜、帝のお召しによつてご座所に参ろうとすると、渡殿や打橋に汚物をまか

れて裳の裾を汚したり、馬道という長い廊下を通りかかると、しめし合わせて

両端の妻戸に錠を下ろして閉じ込められたりします。それは上位の女御たちより彼女と同等もしくは下位の更衣たちがひどかった。そのあたりの嫉妬や反目

の心理は現代小説とかわりませんね。」

—— なるほど。では同じ宮中に勤める男たち、つまり公卿たちは、桐壺を

どう見ていたのでしょうか。 ——

「帝が一人の女性に夢中になると当然政治がおろそかになり、やがて国が亡びると心配します。」

中国にその例があります。殷の紂王が妃の妲妃に溺れ、周の幽王が褒姒の色香にうつつをぬかして国をあやうくしました。また近いところでは唐の玄宗皇帝が楊貴妃の類稀な美貌に我を忘れ昼も夜も彼女を放さずついに安禄山の乱を惹き起こしました。玄宗は日本の遣唐使阿部仲麻呂の傑出した学識才能を見ぬき彼を校書に任するなど重用した名君だったのに、その国王にしてこの有様と上達部たちは心配したのでしょう。」

—— では次は五十四帖の順で「帚木」「空蝉」ですが ——

「帚木は遠くから見るとよく見えていた木が近づくと見えなくなる謎の木、空蝉はご存知の通り蟬の抜け殻、實に象徴的な巧みな巻名です。ここには有名な「雨夜の品定め」があるのですが長文なので割愛しました。」

—— ではどんな話を? ——

「源氏は紀伊守(国司)の若き後妻空蝉とその継娘軒端の荻とはじめて出会い、それぞれ男女の契りを結んでしまう。何とも放埒きわまる女蕩しの源氏の話ですが事のおこりは陰陽五行説という、天文、曆、占いの古代中国の思想が日本に入ってきて平安貴族たちはその占いを真に受けて信じました。」

天一真(なかがみ)という神がいてそれが年中、天上地中を遊行していく、人がそれに突き当ると大変な災厄に見舞われるという方術です。あなたは本月は東にその危険があるから東に行くのなら一たん南へ行って一泊してから東へ行きなさい。陰陽道博士からそう教えられると友人知人を頼つて南の家に一泊するのです。その東の方角を「方塞り」とい、一泊するのを「方違え」と

いいます。

清少納言も『枕草子』の中で「すさまじきもの」として「方たがえにいきたるにあるじせぬ所」と書いてその主のけちぶりを嘆いています。

恵方や艮の鬼門、丙午も大安、友引も、現代まで残っているこの陰陽道名残りの俗信です。しかしまあその俗信迷信のおかげでこの時代の色男たちは浮気をたのしんだのでしょう。」

——いや、たのしんだのは男だけじゃなかつたかも知れませんよ——

「そうかもしませんね。ここではまだほかに雑談にのせたこと。空蝉と軒端荻が碁を打っている所を源氏は物陰からのぞき見します。一体源氏は高貴な身分であります。『若紫』でも、十歳の若紫を小柴垣に隠れてのぞいて恋慕します。

この空蝉の巻でおもしろいのはのぞかれている一人の女性があんまり美人でないこと。「源氏物語」に出てくる女君たちは紫の上にしても玉鬘、臘月夜、夕顔などなど、たいそうな美人揃いですが中には末摘花や花散里にこの二人のような、あんまり美人とはいえない女性も出てくる。そんなところがおもしろいのです。

碁を打っている空蝉は目が少し腫れて鼻もすつきりせず老けた感じで顔の色つやもよくない。ただし身だしなみはよく上品です。もう一人の若い娘、軒端荻は若くつぶつぶと肥えて色白、額つきもよく口元にあいきょうがありはでな感じだが胸元があらわでだらしがなく軽々しい。もちろん二人は源氏に覗かれているなど夢にも思いません。

瀬戸内寂聴さんは丸谷才一さんとの対談で空蝉の鼻がまがっていたと言つておられるが、これは寂聴さんの深読みで紫式部はそこまでは書いていません。』

——では「夕顔」の巻——

「乳母の病氣見舞いに出かけた源氏は、五条通りの小家の建ち並ぶ町中で夕顔と出会います。自分より二つ年長の十九歳ながらあどけない夕顔の無垢な美しさに魅せられた源氏は側近の家来則光の手引きで彼女と会う。彼女の粗末な小家で何夜か逢瀬を重ねた明け方、源氏が目覚めると枕元の板戸のむこうから

とてつもない音がひびいてくる。

鳴る神（雷）よりもおどろおどろしい音が、源氏には何の音かわからない。実は唐臼を踏む音だったんですが、二条院という宏壯な邸宅でふだんくらしてゐる源氏が初めて耳にする音でした。しばらくすると今度はあやしき賤の男の話し声。

『ああ、今朝はまた一だんと寒いですな』『今年は商いもさっぱりでねエ。いなか回りの行商も、もうかる日当てが立たず心細うてやり切れません』

これは旧暦八月十五日夜、名月の翌朝なんですが隙間だらけの茅屋はもう寒いのです。

——庶民の生活の様子ですね。高級貴族のこの物語にはちょっと珍しい場面ですね——

「おっしゃる通り。そこでまた雑談のひとつ。この源氏物語よりほぼ百年前に書かれた伊勢物語の七段にもこのいなか回りの行商が出てきます。『田舎わたらいしける人の子ども井の元に出てあそびけるを大人になりにければ——』と子供の頃のあそび仲間の男女が年頃になつてめおとになる話です。」

——私もそれは読んだ記憶があります。——

「ではここにでてくる商人たちは一体どんな商いをしていたんでしょう。日本書紀の天武帝の記事に見える富本錢から和同開珎以下十二の通貨が奈良平安期に発行されますが商業未発達の為殆んど流通しませんでした。だからこの時代の商いは多分物々交換だったでしょう。源氏物語の中では時々身分の高いものの用事を下位の者が勤めると上位者は禄を与えていますがそれはほとんど衣類でした。

衣類が最も価値があったのです。物々交換の取引きでも重要な通貨のかわりをしたのは米と絹です。

王朝貴族たちはたいそう衣装に凝っています。紫式部も清少納言もその作品の中で実に詳細な衣装の描写をします。

女性の下着の单衣、重ねて着る相桂、一番上の表着、唐衣はむろん腰から下の裳もすべて絹布です。重ねた相の袖口の美を競い豪華さを誇ったのですが、五つ衣、七つ衣といった襲を着込むといかに絹とはいえ嵩高で動くのが

たいへんだったでしよう。

男も狩衣や直衣や袍衣、下襲などなど上達部はむろん五位や六位の上人まで着て帝の大原野の行幸にしたがうようすが『行幸』の巻に出ているし、『藤裏葉』では新妻の所へ向かう夕霧の衣裳にあれこれと口を出す源氏の様子が出ています。』

——貧しい農民などが大変な苦労で蚕を飼い生糸を紡いだのでしょうね——

「そうですね。その絹布には二種類あって一つは練らない生糸で織った生絹というこれは薄くて軽くて主に夏の衣服に用いました。もう一つは練り衣で生糸を灰汁で煮て柔らかくして織つたあたたかくてこれは冬用でした。

衣服の色目にも凝りました。』

——藍や蘇芳、紅梅、縞青鈍等々二十種類もあって年齢によって色を変えたりまた身分地位によって色を定めたりしています。

——染色技術が発達していたのですな——

「ほんとに驚くばかりの色彩感覚で、織細で、高雅なものをもつていたので違う。しかしあもしろいのは、衣類にはそれほど深いこだわりを見せているのに食い物はいたって淡白、というより無関心のように見受けられます。源氏物語には殆ど出てこないようになります。

宴会はよく出できます。酒を飲んで一杯機嫌で管弦楽演奏をやります。たいそうたのしかったことでしょう。樂器は笛や琴、琴は和琴（六弦）、七弦琴、十三弦の筝など。しかし宴会の料理の品目の記述は何もない。『常夏』の巻で桂川や大堰川でとれた鮎と加茂川の石伏という小魚を食うところが出てきます。石伏は私の子供の頃ガンドといつたりドシンコといつてハゼに似た川魚です。それを食う所が出てくるぐらいです。』

「少し長くなりますが『夕顔』の巻の雑談をもう少し申し上げましょ。う。

源氏は夕顔を伴つてなにがしの院という荒れた邸へ出かけ一夜をすごします。ところが源氏と共に臥せつっていた夕顔が真夜中突然物の怪に襲われて息をひき取ってしまいます。物の怪の正体は、これははつきりとは書いていませんが眞恵にもえた六条御息所の生靈と推察されます。

源氏は当然ですが大そう衝撃を受けます。則光のすすめで一たん二条院へ帰りますが、どうしても夕顔にもう一度あいたくて当時の葬殮場鳥辺野へ出かけ夕顔の亡骸と対面します。彼女は生前のままのかわいらしい姿でした。

泣く泣く帰途についた源氏は気落ちのあまり加茂川の堤で落馬してしまいます。隨人（家臣）に助けられてやっと自邸に帰り着ますがそのまま病の床についてしまいます。

——よほど夕顔の死がこたえたんでしょうね——

「そうです。十八歳の源氏は若者の無軌道さで次々と女性遍歴をくり返す不実な男のようですが、一たん愛をちかった女性を見棄てるようなことは決してしなかった。後年六条院という大邸宅に過去の愛人つまり女君達を全部集めて生涯面倒をみます。まあ経済的な面倒をみただけといえばそれ迄ですが、それで少々は救いもあるし共感ももてます。

紫式部もそんなところは十分に考えていたのでしょう。』

「『夕顔の巻』ではもう一つ話をさせて下さい。

源氏物語の現代語訳は何人の人が名訳をのこしておられるがその一人に作家の円地文子さんがおられ、その方がこんな事を言っています。

『夕顔の巻』の冒頭。

小家の立ち並ぶむさ苦しい五条大路の一郭に貧相な桧垣をめぐらし半蔀（上方だけ透けている板戸）を立ててその上方に簾をかけ、すだれ越しに美しい若い女性の顔が何人か大路をのぞいています。その建物の二本の柱の間に打ちつけた板、切懸というのですがそれに蔓が匍い上がり白い大きい花が咲いています。それを食う所が出てくるぐらいです。』

『おちかたびとに物申す』

と源氏が車の中からひとり言のように呼びかけあれは何の花かとたずねると随人の一人が『夕顔という花だそうです』『一房折りて参れ』と源氏が命じると、その家から黄（き）の生絹の单袴（ひとえばかま）をつけた美しい少女が出てきて白い扇を出して『これにのせてさし上げて下さい』といい、花には歌がそえられています。

心あてにそれかとぞ見る白露の

ひかりそえたる夕顔の花  
この源氏の呼びかけは

おちかた人に物申すわれそのそこに

白く咲けるは何の花ぞも

という古今集施頭歌にならったものですが、女の方から男に歌をおくったり小さい家のたたずまいから見て源氏の友人、頭中将とうのちゅうじょうにすてられた夕顔が遊女に身を落としていた、五条の家は遊女宿だったのではないか、と推測されています。

興味深い解釈でこの物語に現代的な背景がより加わったような気がします。」

以上「夕顔」までの、主として雑談の紹介である。

話し相手になって下さったSさんは私より少しお若いがほぼ同年輩の方。該博な知識の持ち主で軽妙洒脱かつ洒落の名手である。

さてこの前田さん邸での会は今は十二、三人も聴講者がいるが、この拙稿が

活字になる頃には三、四人に減っているような気がする。

音声がひどく不明瞭になつたし、西の方もだんだん近づいているようなのでいつやめる事になるかも知れない。  
すべては行雲流水、流れに身をまかせていくしかない。

#### 付記

一、原文の現代語訳は私の拙い訳です。

一、引用文は現代かなづかいにあらためています。

一、出典はいずれも岩波文庫本です。

一、ほかに小学館「日本古典文学全集」の頭註を参考にしています。

## ともしびの賞 受賞

荒木俊介さん

平成元年から十五年間の長きにわたって山崎文化協会の副会長を務められるなど、地域文化の振興に貢献された荒木俊介さんが今年度の「ともしびの賞」を受賞されました。

荒木さんは本会の副会長として活躍されてことと合わせて、機関誌「やまさき文化」の発行にもご尽力いただきました。

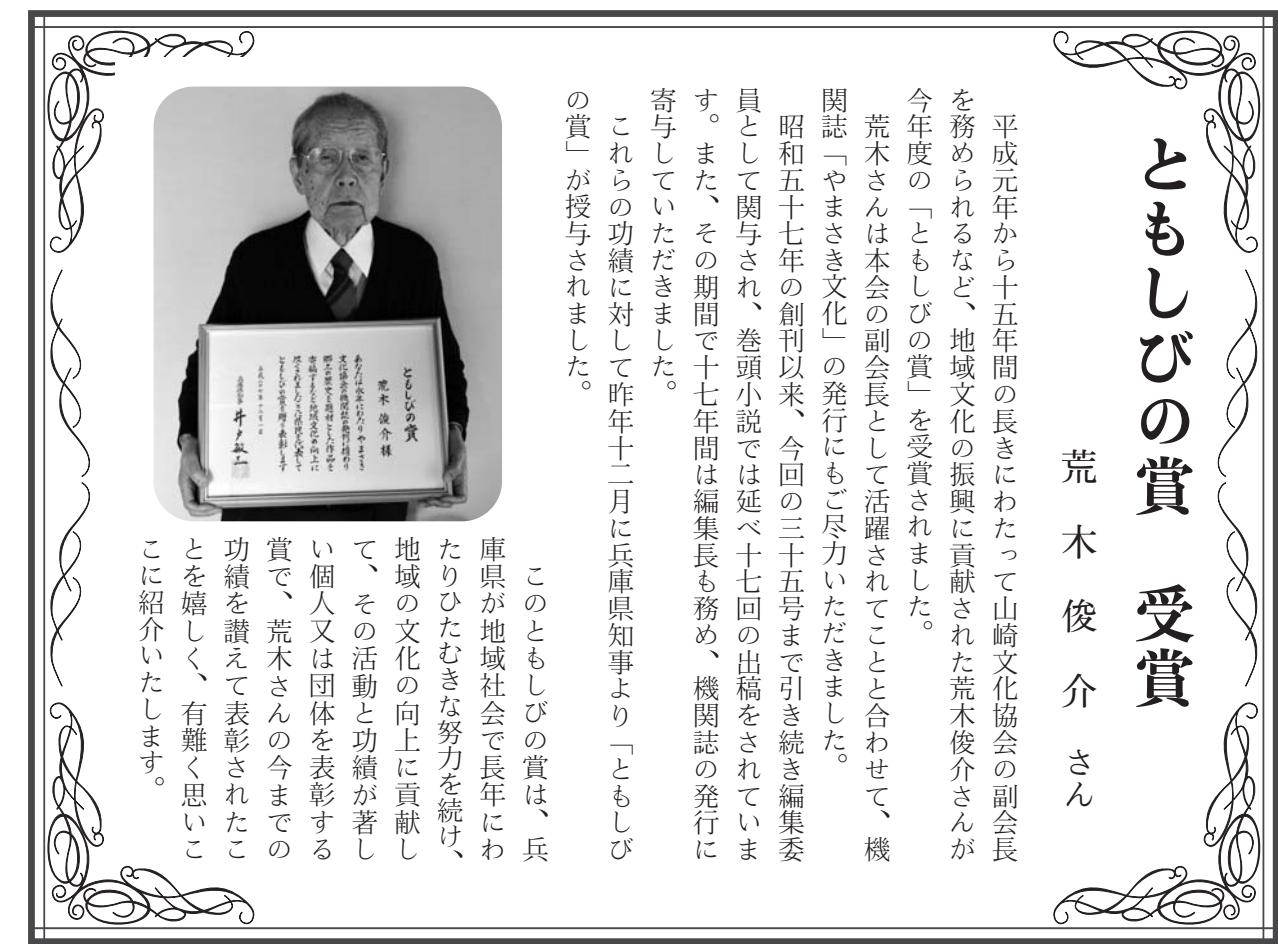
昭和五十七年の創刊以来、今回の三十五号まで引き続き編集委員として関与され、巻頭小説では延べ十七回の出稿をされています。また、その期間で十七年間は編集長も務め、機関誌の発行に寄与していただきました。

これらの功績に対しても、昨年十二月に兵庫県知事より「ともしびの賞」が授与されました。

このともしびの賞は、兵庫県が地域社会で長年にわたりひたむきな努力を続け、地域の文化の向上に貢献して、その活動と功績が著しい個人又は団体を表彰する

賞で、荒木さんの今までの功績を讃えて表彰されたことを嬉しく、有難く思いました。

ここに紹介いたします。



## 宍粟市の文化人をめざして

兵庫県立山崎高等学校長

野 谷 るり子

(宍粟市山崎町在住)

宍粟市山崎文化協会より原稿依頼のお話をいただき、日ごろは「文化」を意識しない生活を送っている私であるが、改めてその意味を考えることにする。

広辞苑によると、文化（culture）とは

「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ科学・技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成的様式と内容とを含む。文明とほぼ同義に用いられることが多いが、西洋では人間の精神的生活にかかるものを文化と呼び、技術的発展のニュアンスが強い文明と区別する。」

と定義してある。文部科学省「教育指標の国際比較（平成二十四年度）」によると、日本の後期中等教育（高校など）への進学率は、全日制で九四・二%、定時制・通信制（本科）等への進学者を含めると九八・三%であり、高い水準にある。「学問は教育によるものである」という前提で言えば、私自身義務教育を経て高校、大学に進み、学問を学び、卒業後は長年教育に携わっているので、まさに文化に囲まれて生きてきたわけである。その上衣食住一人間の生きる知恵一が文化である、ということになると、文化はすべての人間に係るものである。

目前の経済的利益に直結しているとは限らないが、文化は人間が生きてきた証であり、人生を豊かにし、生活の質を向上させる点で、なくてはならないものなのだ。

私自身を振り返ると、文化を強く意識して大学に進学したわけではない。文系学部で学んだが、数学や理科など、答えのはつきり出る教科の学びを深める理系学部より、人間の心理や思想等に興味を覚えたからである。高校時代は公

式や理論を覚えるより、文学や教育に夢を見出し、魅力的に感じていた。将来の職業もまだ決めていなかったが、大学四年生の時に母校で教育実習をさせていただき、当時の山高生たちの純粋さ、先生方の教育に対する情熱に触れ、教員になることが目標になった。教育実習の最終日のホームルームで、自分の高校時代の体験談と、後輩たちへのメッセージを別れのあいさつに込めて述べた直後、一人の女子生徒から手紙を手渡された。「・・（実習生の）先生との出会いを大切にして自分の夢がかなうよう努力していきます。」と自筆で記してあった。「教育を通じて、未来を担う若者に影響を及ぼし、導き育てることができるので。」と実感した。彼女は今頃どうしているだろうか。実習生の私をいつもまっすぐ瞳で見つめ、つたない説明を一言も漏らすまいと聞いていた当時の山高生たちの姿が、教師をめざす私にいつも勇気をくれた。

大学卒業後は幸い教員として地元を中心に長年勤務することができ、現在に至っている。元来内気な性格の私を教師として育ててくださったのは、学生時代にお世話になつた先生方のおかげである。節目ごとにお世話になつた恩師の顔が思い浮かぶ。

小学校では、先生方がすべての子どもたちに公平に優しく接し、丁寧に学習指導をしてくださったので、学ぶことが好きになつた。

中学校では善惡のけじめと心の持ち方の大切さを教わった。私が忘れ物をしたときのこと。頭ごなしに叱るのではなく、静かに諭された。『「自分にとてこれは必ず必要だ」と思っていることは決して忘れない。洗顔や歯磨きを忘れる者がほとんどないよう、「絶対省けない」と心から思つていれば人は忘れないものだ。「忘れる」ということは、心のどこかで「しなくてもいいんだ」と思つてはいるからだ。』担任の先生の説明に「なるほど、確かに甘く考えていた」と納得し、以後忘れ物をすることが恥ずかしくなり、めったにしなくなつた。

高校では、一生涯関わっていく教科を持つほど、学ぶ面白さを教わった。どの先生からも刺激を受けたが、とりわけ英語・世界史の先生の視野の広さには目を見張った。実際の外国での体験談を聞くことが、授業中の密かな楽しみであった。授業を通じて未知の世界にいざなわれ、もっと知りたい、学びたい、と思わせてくださった。また、担任の先生がクラスの生徒一人一人をよく理解し、欠かさず声をかけておられたことには尊敬の念を覚えた。

時には厳しく、時には優しく丁寧に教えてくださり、良くできたときには思い切りほめてくださった。未熟な私に自信を持たせてくださった。教師になつた当時は多くの悩みを抱えながら、教科指導と同時に「人を育てる」視点において、多方面の学びの必要性を感じてきた。そのたびに導いてくださった先生方、また素直で前向きな生徒たちに感謝している。若い先生方に自分が学んだことを伝えていくことで、少しでも恩返しができれば、と思つてはいる。

さて、最近の新聞やテレビの報道で、少々気になつてはいることがある。

文学や歴史、法律など社会の仕組みや人の考え方を研究してきた大学の文系学部の見直しである。

「文部科学省は平成二十七年十月二十日、全国八十六の国立大学中期目標・計画の素案を公表した。二〇一六年度から六年間で目指す事項をまとめたもので、半数に当たる四十三大学が学部などの組織再編を打ち出した。このうち人文社会学系学部の見直しを掲げたのは二十六大学に上った。」（同年十月二十一日（水）神戸新聞）

「文部科学省は数年前から国立大の教育研究機能を強化するため、それぞれの得意分野に人員や資金を集中する改革を進めていた。特に文系学部を「成果が見えにくい」と指摘し、各大学が新設の学部に定員を振り分けるケースが増えた。」（同年十二月六日（日）神戸新聞）

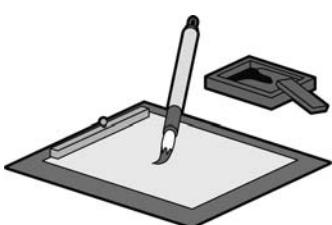
私はまさに文系学部出身があるので、心中穏やかでないものである。自分が力を注いできたことを「役に立たない」かのように言われている気がすると同時に、その一分野とは言え、文化である学問の軽視につながるようで、懸念している。学ぶことが結果につながり、即戦力となることが求められている時代であるが、答えのすぐ出ない問題に対処し、自ら考え、自分で解決していく力が求められている時代である。文・理系を意識せず、文明と文化の両輪をうまく動かすことが必要である。知識を持つことは自信につながり、文化に触ることは生きる喜びや豊かな心につながる。

どちらかというと、今後は技術的発展につながる文明より、精神的生活に関わる文化を深めることがむしろ大切ではないだろうか。

最後に、私が現在挑戦している日本の文化を紹介することにする。恥ずかしながら書道を始め、週一度先生のもとへ通っている。技術はさておき、書に向

かうことで自分の心が整つていくように感じている。お手本にならって書いていると、先人たちの息遣いが聞こえてくるように感じることがある。今、社会にはパソコンやスマートフォンなど情報機器があふれ、便利で快適であると同時に、心がつながりにくい時代もある。書道や音楽、絵画、文学、学問など、一瞬で理解でき、成果が目に見えてすぐに現われるものではないが、ゆっくり、じっくり向き合うことで、じわりと喜びがわいてくる。人生に彩りを添えてくれ、生きがいになるものが文化である。

日本人として、また宍粟市に住む者としてのアイデンティティと誇りを持つた文化人でありたい。



## 略歴

昭和51年3月 兵庫県立山崎高等学校卒業

昭和55年4月から 兵庫県 教員

〔初任校 兵庫県立播磨養護学校

(当時名称)〕

平成27年4月から

兵庫県立山崎高等学校 校長に就任



# 短歌

記憶の果 その二

## 須賀の河原

山崎歌話会 山崎智絵

しゅわしゅわと馬が尾を振る馬として在る寂しさに耐ふるごとに杜澤光一郎

この短歌に出合った時、すぐに思

い浮かぶ一つの光景があつた。

荷車に荷を積む間のしばらくを憩

う馬の姿である。俯きがちな頭を時々

上げ、長い睫毛の聰明そうな目をし

ばたたく。黒髪のような長い尾を思

いだしたよう振るのは、虻や蠅を

追うためである。「しゅわしゅわ」

のこのしめやかな擬音語によって、

私の中に埋もれていたものが、俄に

立ちあがるのを覚えるのである。

県境から支流を集めながら南下し

てきた揖保川が、山川の様相から平

野部の穏やかな流れとなる山崎町と、

川を挟んで東側にある細長い集落を

當時は河東村とよんでいた。

その最南端の須賀沢に至って、まもなく川は行く手を川戸山に遮られ大きく右に曲り、寄りそうように来た道路も左折して安志峠へと向う。

この曲り角に、私を養育してくれた伯父の家があり、六歳から十八歳まで私は揖保川の瀬音をききながら朝夕を送った。家の前には川に下りる急な坂道があり、五十メートルほどは狭い石塊道になっていた。夏の昼下がり、砂を入れた頑丈な木箱を荷車に積み、馬方の掛け声とともに勢いよくこの坂を駆け登ってきた馬が、力尽きて動けなくなるのをよく見かけた。馬方の荒々しい叱咤の声と鞭が鳴り、手綱はより強くひきしばられる。立ち直ろうと跪く馬の喘ぎや悲しげな嘶きが今も忘れない。やがてその姿を見る事がなくなつた。駄馬として育てられた彼らは、戦争が始まると間もなく徵發され海を渡つたと後に聞く。

坂を下りると、無花果の木の辺りから石ばかりの白い河原が広がり、大きな石だけを片寄せただけの砂利道が川端まで続く。その中ほどに合掌造りの屋根だけを置いたような小屋があり、村人は舟小屋とよび、船頭の文さんがどこからか通つて来て舟守りをしていた。

冬が近づくと、荷車も馬の姿もう見えず、砂取りの跡の深さ一・五メートル程の洞穴ほらあなが白い河原に点々と残っていた。底はさらさらと乾いていた。その河原から姿を消した。これはこの河原から姿を消した。年齢不詳のまま或る日突然、文さんはこの河原から姿を消した。

その頃、私は小学校三年生で、日本中戦争はその一年後に迫つていた。





俳

句

## 波賀町へ春の吟行

青嶺句会 杉山美保子

あいにくの雨の中、四月十三日、  
波賀町へ春の吟行に出かけた。今年  
は春の訪れが早かったので、桜の花  
が残っているかしら・・・と心配しな  
がらの出発となつた。

しかし、楓香荘の辺りでは心配を  
よそに満開の桜が私たちを迎えてく  
れた。みんなの歓声は言うまでもな  
い。

海の幸、山の幸をふんだんに使っ  
た昼食を美味しく戴いたあと、句作  
に耽つた。

吟行の雨も又よし余花の里  
とみ代

・谷郷にも残る花にも惜しむもの

良子

・雨けぶる湯の里静か遅桜

幸子

・訪ねれば今を盛りの遅桜

美保子

・雨なれど笑いがたえぬ花の宿

緑山

・とうとうと溪流響き雪解水

チエノ

・たらの芽に棘あり人に業のあり

ゆき

・ふるさとは近くて遠し山桜

光子

・童心に返り八十路の螢狩り

永井とみ代

・まだ淡き螢の光り夕まぐれ

原田 駆雲

・残念ながら、今回参加できなかつ  
た方の詠草です。

・百年の住み古し家ちちろ鳴く

山口 榮子

・沈丁の香のただよへる裏小路

延子

・川風にはぐれ螢を追う螢

三浦 ゆき

・髪切りて出る美容院風光る

駆雲

・露地物の味の旨さや夏野菜

明美

・乱舞する螢の光り藪に消ゆ

若松 幸子

・言訳の虚しさ知るや釣忍

渡辺 明美

・土橋の袂が宿か初螢

秋久 光子

・両の手に掬ひて清ら花の塵

山中 正子

・菜の花や猫通る道定まりて

川崎 栄子

・川沿いに光り合うかや恋螢

大谷 延子

・幼な日の五右衛門風呂に菖蒲の香

本條 淑子

・樂の音の御空へと撞く聖靈会

原田 和代

・生き人よ生き妹よ螢呼ぶ

門積 緑山

・眼裏に残し夏蝶風と去り

壇阪加代子

・花擬宝珠狭庭にひそむ迷ひ猫

田中 良子

・草むらに光る螢の数を増し

鳥羽チエノ

・ビーズこぼれ机上に銀河冬灯

薄木満寿恵

・親鸞像の鋭き眼光に鐘汎ゆる

藤井 七代

## 五色しそう句会詠草

大阪四天王寺聖靈会吟行

(平成二十七年四月二十二日)

・再会に弾む歩幅や木の芽風

秋久 光子

・晴に醉ひ舞楽に酔ひて貝の華

福元 敦子

・菩薩舞ふ顔となりたる聖靈会

角野桂治郎

・余花の舞ひ挿頭す五彩の稚兒行列

重田 陽子

・菩提寺の僧は舞人聖靈会

角野 慶子

・装束の僧の声明聖靈会

富井 幸子

・嘲りや四天王寺の楠の森

三浦 雪

・せせらぎに螢飛び交い夢氣分

中原 和代

・生きはしに届く雅楽や五月晴れ

中田 文子

・いにしえの雅を今に聖靈会

秋久 光子

・遙かなるロマンをここに聖靈会

笠原 了

・飛鳥より引導の鐘春闌ける

福元 敦子

・愛用の年表繕ひ歳暮るる

京屋 伊助

・母の香や選るは寒夜の葬衣

重田 陽子

・どの家も寝静まりて星月夜

清水 省三

・ヤスリかけ心の角は少し春

高井 麗子

・一輪の山茶花和む座敷かな

谷口 昭子

・古民家の手斧の柱冬温し

田中 慶英

・霜柱鳴らし城あと曲輪跡

鳥羽チエノ

・青春に戻りしデモや春辺野古

西田 宣子

・学舎に近道すれば露しとど

松本 寿子

・嬰眠る気配ほのぼの冬ぬくし

三浦 ゆき

## やまさき文化大学俳句部詠草

・ふしくれた手にも感謝し春を待つ

金山 英子

・眺めれば彩り変えて山眠る

久保 義宗

・國生みの聖地めぐりや秋深む

坂井 恵子

・茄子漬の味に沁み込む母の味

坂井 久栄

・艶めけば葉裏覗ける冬苺

杉本 富子

・音も無く冬の星座の飛行燈

清水 省三

・切抜きの柚子茶のレシピ一つ増え

高井 智代

・新米の天地がえしや香の甘し

竹内 幸子

・温顔に氷の髭や羅漢仏

田中 慶英

・味噌汁に葱たっぷりと冬の朝

西嶋 忠義

・托鉢の草鞋に舞ひし落葉かな

萩原 恵子

・子らの手の二つ三つ寄る焚火かな

谷口 昭子

・ふる里の空の蒼さよ櫨紅葉

速水美知代

・雪吊りや庭師の跨ぐ芯柱

田中 慶英

・鳶を追ふ鴉が三羽小春空

宗平 圭司

## 笛ゆり・みやこ句会詠草

・能登路立つ古稀遙かなる春の海

前野 徳子

・餅丸め喜寿の心を丸くせり

宗平 圭司

・雨おもき石榴の枝の垂れにけり

秋武久美子

・寒空の砂丘に座する思念人

小田 朝子

・新米の立ちあがりたる茶碗かな

是兼 妙子

・大根引く折れて命のほとばしる

坂井 恵子

・鈴なりに夕日を浴びて柿紅葉

坂井 久栄

・嫁ぎ来て半世紀の手大根ひく

重田 陽子

・温暖化背戸の紅葉の色なさず

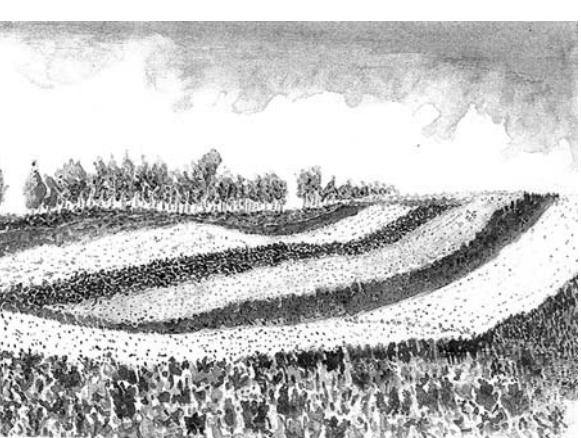
谷口 昭子

・ふる里の空の蒼さよ櫨紅葉

土井 洋美

・ふる里の空の蒼さよ櫨紅葉

速水美知代



・煩惱にふりまわされて年暮るる

矢野登次郎

## 草木の名前

山崎植物同好会

鳥 越 茂

私は山崎植物同好会の会長を今年から務めさせてもらっています。会の第一回目は昭和六十年八月に会員二〇名で山崎八幡神社の森で開催され、本年十月岡山県立森林植物園での観察会で二三九回となりました。

平成九年に百回を迎えたのを記念して“野山の雑記帳”という記念誌が発行されました。その時一〇〇名以上の会員となり、最も多い時は一三〇名を越しています。当時私は事務局として毎月、案内のハガキを出していたのですが、その手間に閉口していました。その後会員の方の高齢化によるためか参加者が減り、現在実活動人数は二〇名ほどになっています。今年は十月に岡山県立森林植物園に行ったのですが、マユミの真っ赤な実が鈴なりで、ゆっくりした時間の中で目の保養をすることが出来ました。



## ファインダー越しに 見える風景

新潮会

上山成良

数年前、葛沢の延ヶ滝へ撮影に行つた際、偶然地元の知り合いのKさんから滝にまつわる古い話をうかがいました。

昔、この少し上流にあった木地師の村に、母親と二人で暮らす若者がいました。

ある秋、友達に誘われて室津の明神さんに参詣したあと、二人は室津の遊廊へ上がり、そこで若者はおのぶという遊女と知り合いました。

おのぶは美しい情の細やかな女性で、二人は深い馴染みになり、彼女の年季があいたら夫婦になろうと固い約束を交わしました。

三年の歳月が流れ、やっと年季が明けた彼女は胸をはずませて恋しい男が待つはずの播磨の奥地へ旅立ちました。尋ね尋ねて、河原山野々隅の木地師の家の戸を叩きました。だが、運悪く若者は遠くへ仕事に出て留守でした。彼女からいきさつ

楽しみながら、その上、植物の知識も少しずつ増え、私も何とか図鑑を引ける程度にはなれたと思います。植物の名前の覚え方は図鑑を引きながら種名にたどり着く方法と、詳しい人に教えてもらって覚える方法がありますが、図鑑を引くにはある程度知識がないとなかなか名前にたどり着けません。その点、植物同好会にはしっかりした先生がいらっしゃいましたので、正確な名前を教えていただきました。また、同じ名前を何回尋ねてもいやな顔もせず相手していただき、本当に恵まれていたと思います。

「遠いところはるばる来てくださいあなたには気の毒じゃが、息子は急な病で死んでしまいました。」涙ながらに母親は言い、そして墓地に連れて行き、最近死んだ近所の男の墓を見せました。夕方、赤い鼻緒の草履を履いた美しい女が重い足取りで山道を下る姿が村人の目に止りました。

何日か経って滝壺に女性の水死体が浮かんでいるのが村人に発見されました。その少し上流の木の枝に赤い鼻緒の草履が片方引っかかっていました。

これが、私がKさんから聞いた「延ヶ滝」の由来です。私はそれを聞いて以来ファインダーからのぞく風景の一つ一つの奥にそれぞれの深い心が宿っているような気がしてなりません。

野々隅という今ではまったく人跡まれな山奥にも、かつては木地師という職業団の熱い息吹きがあったということにも深い感慨を覚えました。

を初めて聞いた母親は驚愕し、そして少なからず不安を覚えました。厳しい木地師の生活と仕事に遊女上がりの女性が堪えられるはずがありました。

## 「かるた」のこと

山崎かるた同好会  
下 村 悅 子

十年前のお正月に私は独りで家にいて、「かるた（百人一首）」をしたい」と思いました。中学生の頃はかるたが盛んで、あちこちのお友達の家でかるたをして遊ばせてもらいました。三、四人で押し掛け「かるたしようか」「お、ええぞ、あがれいや」というような調子で、その家のお兄さんやお姉さんも一緒にかるたをとつてもらつた記憶があります。

何とかしてかるたをしたいと考え、娘の頃に姫路では「市民かるた大会」が開かれると聞いたことを思い出し、「そうだ姫路は城下町だから、かるたの会なども続けておられるグループがあるかも知れない」と思い、姫路文学館へ電話をしました。「姫路市ではもうしておりません」というのがその返事でしたが、「たつの市が公民館活動で熱心にやっておられますので、訊かれたらよろしいでしょ

う。こちらからも言つておきます」と親切につけ加えてくださったので、たつの市役所に電話をし、かるた会のお世話をしておられる方を紹介してもらつて、やつと練習会へ行けることになりました。予想はしていたことですら、レベルの高さに驚きました。来るたが盛んで、あちこちのお友達の家でかるたをして遊ばせてもらいました。三、四人で押し掛け「かるたしようか」「お、ええぞ、あがれいや」というような調子で、その家のお兄さんやお姉さんも一緒にかるたをとつてもらつた記憶があります。

十年ほど前のお正月に私は独りで家にいて、「かるた（百人一首）」をしたい」と思いました。中学生の頃はかるたが盛んで、あちこちのお友達の家でかるたをして遊ばせてもらいました。三、四人で押し掛け「かるたしようか」「お、ええぞ、あがれいや」というような調子で、その家のお兄さんやお姉さんも一緒にかるたをとつてもらつた記憶があります。

かるたをしたいと考え、娘の頃に姫路では「市民かるた大会」が開かれると聞いたことを思い出し、「そうだ姫路は城下町だから、かるたの会なども続けておられるグループがあるかも知れない」と思い、姫路文学館へ電話をしました。「姫路市ではもうしておりません」というのがその返事でしたが、「たつの市が公民館活動で熱心にやっておられますので、訊かれたらよろしいでしょ

## 出会いの中で

宍粟茶華道協会  
井 口 照 子

私が茶道における出会いの中で得た事は他にもあります。それは、人ととのつながりと温もりです。城下ふれあいセンターでの『お点前教室』では、多くの方が参加されました。基本稽古の他に、指導者の心を弾ませながら日々を過ごしています。

さて、平成二十七年度、本会に於いて『宍粟市地域文化遺産伝承事業』皆で日本的心お茶を体験』の事業に基づき、『笛の子茶道教室講座』を開校しました。受講者は小学生～中学生。茶道の先生方からの丁寧な手ほどきを受け、稽古に励み、茶道体験に楽しみを見つけたようでした。

また、子ども達は『観月会』のお茶席において、初めてのお運びを体験しました。「ドキドキする」と話していましたが、『文化祭』では、「楽しい」「嬉しい」等キラキラした声が飛び交い、しっかりと経験を積みます。

昔のように自分の近くでかるたを楽しめる環境をつくりたいと願っています。

ました。平成二十八年一月、子ども達は、十回の稽古を無事に終え、『笛の子茶道教室講座』が閉校しました。茶道の出会いを通じて子ども達の成長を傍で見る事ができて、私は幸せでした。

私が茶道における出会いの中で得た事は他にもあります。それは、人ととのつながりと温もりです。城下ふれあいセンターでの『お点前教室』では、多くの方が参加されました。基本稽古の他に、指導者の心を弾ませながら日々を過ごしている言葉も私達には嬉しくて「この時間が楽しみで何よりも優先」「お寺の掃除後この教室が楽しみで急いで駆けつけた」と共に集い、笑い、喜び、語り合い、心がつながっていきます。私は、茶道が人と人とのつながりと温もりを与えてくれていると実感できました。

最後に、地元や保育所、幼稚園、小中学校にもご尽力下さる茶華道の先生方とそんな活動を支えて下さるボランティアの皆様にも感謝しつつ、これから多くの出会いを通して、笑顔が溢れる毎日を過ごしていきたく思っています。

## 都多獅子舞保存会の取り組みを通じて

都多獅子舞保存会

小田保志

苦しい中にも貴重な体験をし、やり遂げたことの達成感をうまく表現していました。

獅子舞という伝統芸能の取り組みを通じて子どもたちが生まれ育った都多を誇りに思い、獅子舞をやりきつたことを自信に思つてくれることは嬉しい限りです。

また、学校(先生)や家庭(家族)ではない「地域の大人」が、厳しく教え、励まし、叱り、褒め、見守ることは子どもたちの成長にとってとても大切なことであり、その場に参加できたことは私自身の幸せでもあります。

今後、地域の子どもたちが減少する中、保存会の活動を続けることは容易なことです。ではあります。せんが、会員のみんなで話し合いながら続けたいと思つています。

子どもたちにとって、夏休みの宿題の追い込みや運動会の練習などで慌ただしい時期に、今まで経験したことのない獅子舞を地域のおじさんから教えてもらうことは苦痛であります。小学校の学習発表会で六年生が都多獅子舞の取り組みを演劇で発表し、



## 山崎町民合唱に参加して

山崎町民合唱

谷 笹 摩 弥

縁あって一昨年度より山崎町民合唱に入れていただき、大変充実した日々を送っています。

月に二回、練習会場へいそと集まります。みなさんの嬉々とした表情。早く来てくださる方が練習時間を使適に過ごせるようとに、夏はクーラー、冬は暖房と気を使つてくださいます。椅子もテーブルも誰がするともなく皆で協力し合つて整えられます。

指導の栗山先生と、伴奏の長井先生の下、練習は約二時間、途中軽く十分ほどの休憩を挿んでたっぷり行われ、熱心に練習を繰り返します。

この非日常の充実感がなんとも言えず私の大きなリフレッシュとなつております。聞けば、なんと結成四十周年を迎えるという歴史ある合唱団であることを知りました。活動を続けておられる間にはきっといろいろなことがあったでしょう。自分の

体調はもちろんのこと、家のこと、家族のこと等、人生にはこまごまとしたもやもやが付き纏います。メンバーそれぞれがそれらを乗り越えられ、結成時からの現役メンバーが在籍されて、大変息の長い活動に感謝いたしました。また、年に一度の施設訪問では障がいの方々に優しく接しておられる姿がとても温かくほっこりいたしました。

さて、新米の私も早速ユニフォームである淡いピンクのドレスを説えさせていただき、山崎文化会館の舞台に立たせていただきました。大好きな歌を仲間とともに心を一つにして合唱できる事は何物にも代え得るものでなく大きな喜びとなりました。

これからもメンバーの皆様のようにしつとりと華やかに歌い続けられたらいいなあと思いつつ、今最大の悩みは、衣紋掛の淡いピンクのドレスがこの一年半の間にちょっとずつきつくなり、次のステージではもう直さずに着られそうもなくなっていることです。



## 歩き遍路に想う

昭和会  
野村和男

昭和会は講師を招いての月例会、秋にはフォレストステーション波賀で音楽鑑賞の家族例会。年に一度の会員旅行。数回のうまいもん食事懇談会、ゴルフコンペ等を実施し、会員の親睦と文化と教養を少しでも高められたらと活動しております。

三年前の会員旅行では四国へ出かけました。道後温泉や大洲の街並み散策。お遍路さんの姿も見かけました。四国ではお遍路さんの装束がとても溶け込んでいます。そんな風土、文化が四国には根付いています。去年四国遍路が「日本遺産」に登録されました。国籍や宗教を超えて誰もが「お遍路さん」になれる事。四国四県が共有している「お遍路文化」が認められたのだと思いません。

遍路の方法は歩きの他にバス、車、自転車、バイクと多様であり、巡り方も通(とお)し、区切りと自分の体力やペースにあわせ自由です。

私はバス遍路と歩き遍路を体験しましたが、歩き遍路がお気に入りです。歩き遍路の魅力に取り憑かれます。

「お四国病」に感染しています。  
白装束に菅笠をかぶり、金剛杖をついて四国一周延べ一二〇〇キロの歩き遍路。いっぺんに四国一周することは出来ません。三日～四日づつ区切りながらの挑戦です。

歩き遍路をしていりますといろんな事に出くわします。多くの人からお接待を受けた事。山の中でイノシシに出会った事、熱中症になって倒れ込んだ事、強風の中菅笠もろとも飛ばされあやうく海に落ちそうになつた事。

歩き遍路は大変しんどいです。一日に三〇キロ前後を歩きます。山もあれば海辺もあります。重いリュックを背負って一步一歩進んでいきます。しんどければしんどいほどお寺に着いた時の喜びは大きくなります。

魅力一杯の「歩き遍路」。でも去年は膝の手術で入院したり、肩の故障等で殆ど歩き遍路に行く事が出来ず「お四国病」が悪化しています。

身体の調子が回復さえすれば、今年こそ「歩き遍路」に再挑戦！

## これでも“書”？

山崎美術協会  
浅田とし子

長い太筆の鋒先からしたたる墨液の一点を起筆の位置と定め、更にそこから無限の広がりを求めつつ次の点画へ筆を運び作品をしあげていきます。

古典の臨書を重ね、それを土台として創作する現代書（前衛書）に興味を持ち取り組んでおりますが遅々たる歩みです。

何しろ私の幼少時代は戦争一色で塾などありませんでした。三十代半ばにして書の稽古を始めましたが、最初は教育書道や古典臨書一筋で、現代書に手をつけたのは遅く、未だ初心者の域をうろついています。題材は何を選んでもよい場合が殆どで、振り返ると私は「無」や「安」を度々取り上げています。理由は幼時の体験。耳をつんざくB29の爆撃の轟音、恐怖。焼け跡に立った時の無力感。疎開第一夜の安眠。これらは七十年以上たった今でも私の身に染みついています。そんな経験から

「無」「安」など、これまでに何度か取り組み、その都度またがった表現ができればとの思いが強いのです。

初めて現代書を見た時、私も「これでも書だろうか」と驚きました。

現代書に手本はありません。



この作品は数年前に行書の「無」のイメージからかすれを生かして書いたものです。

## 民踊おどりに 出合えて

さつき民踊グループ

大 西 タツエ

さつき民踊の仲間に入れていただき、覚えては忘れ、忘れては覚えの繰り返しで、早ひと昔が過ぎました。坂東寿賀幸先生をはじめ、さつき民踊の気の合う仲間の皆さんと出会えて、楽しみながら過ごしたことを嬉しく、懐かしく思い過去を振り返りました。

私が働いていた頃の二十八年前に大動脈の重い病気にかかり、成功率が低いといわれていた手術を受けました。大丈夫だろうか、もし治らなかつたら、家のことやら将来のことが不安で仕方ありませんでした。京都の有名な病院を紹介していただき、立派な先生方のおかげで手術が成功し、術後は順調に回復し、職場復帰が叶い、会社の理解や家族の協力もあり、本当に恵まれた中で仕事を続けられたと感謝しています。

定年後に踊りに誘われて、さつき民踊グループに入会しました。会員

さつき民踊の仲間に入りていただき、覚えては忘れ、忘れては覚えの繰り返しで、早ひと昔が過ぎました。坂東寿賀幸先生をはじめ、さつき民踊の気の合う仲間の皆さんと出会えて、楽しみながら過ごしたことを嬉しく、懐かしく思い過去を振り返りました。

さつき民踊の自慢は、皆さんご夫婦揃ってお元気でおられ、家族の誰一人として文句を言わずに協力しておられることが思いますが、私も歳を重ね、頭と体がついて行けず、いつも皆さんの足手まといになってしましました。

さつき民踊の自慢は、皆さんご夫婦揃ってお元気でおられ、家族の誰一人として文句を言わずに協力しておられることが思いますが、私も歳を重ね、頭と体がついて行けず、いつも皆さんの足手まといになってしましました。

さつき民踊の自慢は、皆さんご夫婦揃ってお元気でおられ、家族の誰一人として文句を言わずに協力しておられることが思いますが、私も歳を重ね、頭と体がついて行けず、いつも皆さんの足手まといになってしましました。



## 秋の研修旅行 紀行

山崎郷土研究会

浅 田 茂 樹

今年の研修旅行は山崎郷土研究会と山崎文化協会の合同研修となり、京都御所の一般公開と京都国立博物館の特別展「琳派誕生四〇〇年記念特別展示・琳派京を彩る」の見学という豪華な研修であった。

十一月一日、午前八時会員で満席のバスは山崎を出発し、色づき始めた中国道をひたすら京都へと進んでいった。最初は京都御所の見学である。当日は日曜日とあって多くの人で賑わっていた。入口の「宣秋門」をくぐると、「御車寄」があり、華麗な金屏風が飾られていて、御所の優美さが想像できるものであった。

そこからは順路に従って行くと、牛車が置かれた「新御車寄」即位の礼などの儀式が催される「紫宸殿」など、普段は見られない場所を人混みに流されながら巡つていった。「蹴鞠の庭」では、きらびやかな衣装を着た人たちが蹴鞠の実演をしておられ、秋の気配が漂う庭の木々と

絶妙の風情を醸し出していた。

その後、昼食もそこここに、琳派

展の行われている京都国立博物館へ急いだ。琳派展は創始者とされる本

阿弥光悦が琳派を開いて四〇〇年になるのを記念して開催されるもので、琳派の代表作で国宝や重要文化財を含む多数の作品が展示されている。

会場は大混雑で、九〇分程度並んでやっと入館できた。館内は照明が落とされていて薄暗く、作品を照らす明かりを頼りに、絵画や工芸品、屏風絵などを観て回った。どの作品にも作者の気迫と魂が込められていてすばらしいものであった。その中でも、琳派を象徴する「風神雷神図屏風」は他を圧倒する存在で実物に接する幸運をかみしめながら、しばしば見入っていた。

今回の研修では、京都の古い歴史と伝統に育まれた格式高い京都御所のたたずまいを見学し、同じ地で開花した琳派の数々の作品を鑑賞する事ができ、心満たされました。企画やお世話くださった各位に衷心より感謝申し上げます。



# 私の芸能文化

## 「らしさ？」

山崎詩舞道連盟  
紫州流日本明吟会

川原勝典

以前、私は謡曲（うたい）を一宮町の秋田利一先生に指導を受けました。先生は、それだけでなく写真、彫刻等、非常に多才な方でした。（残念ながら、十数年前にお亡くなりになられました。）謡曲の稽古中は厳しく、正座を崩すことも出来ないほどでした。また、稽古は、毎週一回ほとんど休みなしでした。稽古以外の時は、大変優しく親父のような存在でもありました。新年、五月会、夏、秋と大会を開かれて、年二回は旅行を計画されるなど、楽しい日々でした。おかげで二十年間に七十曲も習う事ができ、観世流から免状も受けました。

けれど、平成五年、私の父が亡くなり、未練はありましたが、それを機に退会することにしました。しかし、やめると趣味がなくなり何とも言えない心の空洞ができ、スナック

に退屈なものだと実感したところで、暫くして謡曲にも戻れないでの、詩吟をされておられる方にお願ひして、先生を紹介して頂き、現在の明吟会に入ることが出来ました。先生は、わざわざ一宮町から山崎まで来てください、私は稽古を始めるようになりました。しかし、発声すると言つても声を出す部位が全く違います。最初は、むやみやたらと大きなか声でわめいているだけでした。でも何とか詩吟らしくなっていくと、だんだん面白く楽しくて気分上々。それが九月には昇段審査会（平成五年）があるので、余計に頑張って声を出したものです。

審査会当日、今まで味わった事のない緊張感。もう、どうにかなるだろうと舞台に立ち、何とか吟じ終え結果を待ちました。いよいよ発表という時は、胸がどきどきしました。結果は優勝でした。何とも言えない嬉しさでした。飛び級で、しかも一回で初段なんて思ってもいなかったので、本当に嬉しかったです。

あれから約二十二年、色々と多くの大会に出吟させて頂き、何とか舞

に行つて酒を飲んで歌を唄うくらいでした。趣味のないと言う事は本当に退屈なものだと実感したところです。暫くして謡曲にも戻れないでの、詩吟をされておられる方にお願ひして、先生を紹介して頂き、現在の明吟会に入ることが出来ました。先生は、わざわざ一宮町から山崎まで来てください、私は稽古を始めるようになりました。しかし、発声すると言つても声を出す部位が全く違います。最初は、むやみやたらと大きなか声でわめいているだけでした。でも何とか詩吟らしくなっていくと、だんだん面白く楽しくて気分上々。それが九月には昇段審査会（平成五年）があるので、余計に頑張って声を出したものです。

これから、もっと上を目指したいのは勿論ですが、若い人そして多くの人達に詩吟の素晴らしさを教えるが、古来からの芸能文化を大事に大切に続けていきたいと思います。振り返ると妻の理解と思いやりがあったことは、深く感謝しています。おわりにあたり、山崎文化協会の益々のご発展をお祈りいたします。

台度胸も付いてきました。中学校しか出ていない私が、漢字が苦手な私が、漢詩ばかりの詩吟をやれるなんて。考えてみると、積極的な姿勢がいたように思います。

これから、もっと上を目指したいのは勿論ですが、若い人そして多くの人達に詩吟の素晴らしさを教えるが、古来からの芸能文化を大事に大切に続けていきたいと思います。振り返ると妻の理解と思いやりがあつたことは、深く感謝しています。おわりにあたり、山崎文化協会の益々のご発展をお祈りいたします。

今、古典を習っています。一口に古典といつてもなかなか難しいもので、頭の動き、目の動きと手の動き、足運びなどいろいろの決まりごとに。嬉しい限りです。

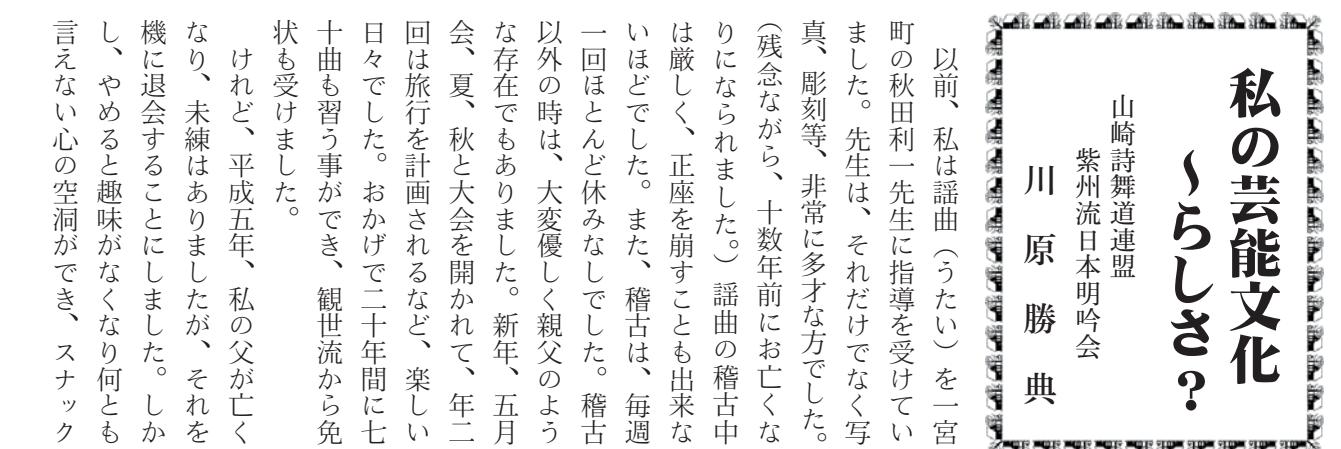
今、古典を習っています。一口に古典といつてもなかなか難しいもので、頭の動き、目の動きと手の動き、足運びなどいろいろの決まりごとに、四苦八苦しながら何とか自分なりに前に進んでいると思っていました。ですがこれで良いのかなとほかの方に舞っているのを見せてもらいました。ああそうかと足を出したり、体をそらしてみたりしながらお稽古をしていきます。

体調を崩しての十年でしたので遠出のほうはまだ不安がありますが、近場でのボランティアでがんばりました。ここまでになったことを皆さんに感謝しながら続けていきます。

# 感謝しながら

山崎日本舞踊の会（郁踊会）

猪子敦子



## 和太鼓を習い始めたきっかけ

宍粟和太鼓アーツ倶楽部  
永峰輝彦

宍粟市誕生から十年、和太鼓アーツ倶楽部も、設立から十周年。おめでとうございます。僕が太鼓を習うようになり一年になりますが、十年の節目にここにいられるふとても有難く思います。

僕が習い始めたのは、家族で山崎に帰ってきた次の月からでした。子どもたちのための習い事を探していたところ、ふと思いついたのが、それこそちょうど十年前でした。母から「和太鼓教室の生徒を募集しとつてんやけど、あんた習わんか。」といわれ、「ええわ。」とすぐ断りました。そんな会話を思い出し、「和太鼓」がええなと直感で思い、「今でもやっているのか。」と母に尋ねたり、いろいろ調べてみると、子どもは小学一年生からしか習えないとのことなので、息子は小学生になつたら習わせてもらうことにしました。調べていくうちに僕自身がとても興味を引

かれ、子どもが習う前に体験として、否、むしろ親子のコミュニケーションとして共通の趣味があつた方が良いなどと、勝手に自分が習うことを正当化し、まず自分が習い始めたのが二年前のことです。

いざ習い始めると、ついて行くのがやっとで、今でも必死です。そのあと習い始めた息子はよく泣いたりしてしまったが、今では本人なりに目的を持ってがんばっています。今でもたたず悔しくて泣くこともありますが、それをバネに練習する姿を見てたくましく思います。

今年は十周年発表会にも参加させていただくので、精一杯がんばります。



## 新人の育成

山崎邦楽の会

石野和雄

最近の世の中の変わり様は、半世紀を過ぎると何もかもが大きく変化してしまいます。昔を懐かしみ、現在を眺めると軽佻浮薄の感がするのには、自分のような古い人間の思うこともかも知れません。

昔日を振り返るとき、何の芸でも重み厚みが違うように思えてなりません。流行歌にしても、昔の歌は実際に詩がしっかりと書いています。意味も

よく分かります。今の歌は何をいつているのかさっぱり分からず、次々と曲は作られますが、心に残る歌は少ないです。

現在の邦楽においても、それに親しむ人口は減少しているように思います。あまりにも娯楽が多くて選択の幅が広くなっているのかも知れず、地味な音楽には、現代人は向かないのか、また変化のスピードが速くなっているのか、ゆっくりとした静かな音楽は興味がわかないのでしょうか。

また一寸それをやってみようとしても稽古の割にすぐ結果が出ず、楽器も自前のものがいるし、つい手が出ない要因があるのかも知れません。古い伝統を、今絶やすのは惜しいことです。

しかし、伝承者がいなければ駄目になります。若い人が今育っています。若いうちに年配者がいなくなつたときに途絶えてしまいます。若い人を何か仲間に入っていただきないと邦楽の火が消えます。

新人の育成が今一番大切なことだと思います。昨年と同じ内容になりました。やはり思いは変わらずですが自分で感じています。



## 和顔愛語

平成会  
伊達達也

平成会は毎年、その年の会長がテーマを決めます。一昨年のテーマは「室内一盞燈（しつないいさんのもしげ）」、昨年は「コントロール」、そして今年のテーマは「和顔愛語（わがんあいご）」。その意味は、穏やかな顔つき、優しい言葉使いは、自分でなく周りをも、ほのぼのと幸せな気分にする。という意味です。心が荒みそうになつたらまず、深呼吸して平常心になって、春の日だまりのような雰囲気を身にまとう人になりたいという思いを込めて、このテーマにしました。文化協会の中には、文化に携わっておられる力なのか、この言葉通りの方がたくさんおられるような気がします。

今年の活動は、四月に姫路ケーブルテレビの方を招いて、ケーブルテレビの現状を教えていただきました。五月には、伊和神社において「播磨風土記」の勉強をし、六月には、毎

年恒例の「ジャガイモ掘り」を実施してもらいました。七月には、ミズノテクニクス（株）グラブマイスター

岸本耕作氏による講師例会、八月はメンバーである壱阪氏の明延鉱山内の「明壽蔵」を見学し、九月には、

海上自衛隊潜水艦隊司令官を歴任された小林正男氏を招いて、日本の防衛事情をお聞きしました。十月には、ゴルフの女子プロトーナメントを観戦し、十一月はメンバーである三谷氏による調停委員としての講師例会、そして最上山もみじ祭りの折、山崎八幡神社での能舞台コンサートと共に催しました。

平成会の活動の目的は、地域社会の文化的諸問題を調査研究し、文化的発展に寄与する事と、会員相互の親睦を図り、相互の資質の向上を目指すことです。今年もこの目的に添つていい活動ができました。今後も協会の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## やまつ子二十周年記念 発表会に向けて！

山崎民謡連合会  
日本民謡 やまつ子会  
石田陽子

日本民謡やまつ子会も皆様のご声援をいただき、今年七月十七日(日)山崎文化会館におきまして二十周年記念発表会を開催することになりました。ご来場くださったお客様や会員の方々の心に残る歌や音色を、と只今練習に励んでおります。

私たちも、随分と高齢になりますが、現在若い子たちも一緒に頑張っています。中学三年生、小学五年生、二年生、幼稚園児とお稽古の教室は賑やかで、まるで孫たちに囲まれているようで楽しく練習ができています。伝承していく務めが果たせることが嬉しく思える時間です。

記念発表会には新人コーナーとして三味線合奏「さくら・花嫁人形」、歌も一人一人予定しております。かわいいびっ子たちの姿にも是非ご声援ください。発表会エンディングには徳島阿波踊りを予定しております。



す。お客様と賑やかに終了したいと思います。

写真は敬老会やディサービスなど施設訪問時にちびっ子たちが歌つている姿です。

今年も各地域でのイベント等に参加させていただき、皆様の笑顔にお会いしたいと思います。どうぞ、お気軽に声を掛けてください。そして、二十周年もどうぞ多数お越しください。お待ちいたしております。

# 遠い空の向こう を見つめつつ

山崎謡曲同好会

春名芳子

二流合同で「景清」「猩々」等五曲がベニスで上演され、その三年後パリで、昭和三十八年にはアメリカ各地へと広がったそうです。

七五調が基本の詞章に能特有の発

声と抑揚ある節で謡う謡。シテ一人、

表情を作らない直面で囃子もない地

初秋の涼風立ちはじめた去る九月二十六日、第十九回山崎八幡神社奉納薪能が開催され、静寂に包まれた鎮守の森境内で大勢の観客とともに、典雅を極めた優美な能一曲と、軽妙

洒脱なほのぼのとした笑いを秘めた狂言を、幻想的な篝火の明かりの下で鑑賞しました。正面奥の檜板張りの能舞台に橋掛けの空間。演能役者さんの豪華な面装束での動きの表現。囃子方の能管や小鼓、大鼓、太鼓の透き通った音色。重厚な響きの地謡。日本の最たる古典芸術の別世界に引き寄せられ、能楽師・狂言師の方々の磨き抜かれた演能舞台に魅了されました。

今から六〇〇年前、観阿弥・世阿弥父子が能と狂言を合わせ、芸術的に完成させた能楽。今では海外でも盛んに公演されているそうで、海外初演は昭和二十九年、観世・喜多

今年度、第三十六回となる毎年開催の山崎謡曲同好会大会は、大先輩のご意志が脈々と受け継がれ、山崎の伝統文化として継承されています。毎回各社中の方々と互いのおさらいを鑑賞し、学び、交流出来るのが嬉しい、先輩方のご尽力があつて今があり、謡曲や仕舞が続けられるのは先生はじめ関係各位のご配意のお陰としみじみ思う感謝の日々です。世の動きは速く、忙しない日常生活が過ぎ行きますが、時には心緩やかに遠い空の向こうを見つめつつ気長に、一曲一曲稽古が出来る事をありがたいと思っていました。

# 絵と読書と私

ターンアートクラブ  
中上泰三

たのですが一度だけ母が坪井栄の本を買ってきました。私は嬉しく飛びついて読みふけりました。それから夢中になり学校の図書館でもよく本を借りてきては夜遅くまで

読みました。

鳩椋十の本は挿絵が好きでそこから絵にも興味を持ったのかもしれません。教師になってからも子供達には読書をすすめ、国語の本読みは熱一面に並べられるようにしてくれました。

しかし、今は絵具ではなく本が並んでいます。夏目漱石を始め、宮沢賢治、森鷗外や芥川龍之介の全集がずらりと並んでいます。学生時代に古本屋で見かけたそれらの全集は高価で私の小遣いではとても買うことはできませんでした。しかし今はネットで安く買うことができます。アトリエで絵を描きながら一冊を取り出しています。今はまだ仕事をしているので、なかなか本を読む時間がありません。しかし休日の朝はゆっくりと読書をするよう

に決めています。読書の楽しみを教えてもらったのは、確か小学三年の担任をしてもらつた女の先生でした。家では本を買つてもらうことはなかつ

たのです。先生は、「絵の中に物語がないと人に感動させることはできない」と繰り返し言われます。自分がまず感動をして見る人にいかに伝えられるかが大切だということです。

私にとって読書は血や肉であり、絵は骨でライフワークだと思っています。これからも感動の気持ちを忘れずに心を深め、人に感動が伝わるような絵が描けるように字が読めるうちには読書も続けていこうと思っています。

 今から六〇〇年前、観阿弥・世阿弥父子が能と狂言を合わせ、芸術的に完成させた能楽。今では海外でも盛んに公演されているそうで、海外初演は昭和二十九年、観世・喜多

## 宍粟市少年少女合唱団の思い出

宍粟市少年少女合唱団

世 良 紗也果

私は三年生の四月から少年少女合唱団に入団しました。今振り返ると本当にいろいろなことがありました。入団したはじめの頃は友だちはなくて、さみしくて「もうやめたいな…。」と思ったことも何度もありました。でも、自分たちの合唱をきいてくださった多くの方から笑顔で拍手をもらったり、「良かったよ。」「また歌をきかせてね。」という暖かい言葉をいただいたりする中で、私の心中には「私たちの歌声が多くの人を幸せにできるんだ。」という実感がだんだんと育つきました。そして、どんどん歌うことが楽しくなっていきました。



宍粟市少年少女合唱団は毎年一月に定期演奏会を行います。そして定期演奏会ではなくミニユージカルもするのです。「オズのまほう使い」、「ヘンゼルとグレーテル」、メーテルリンクの「青い鳥」：私も

今まで三回、出演させてもらいました。そして今年はピーターパンでピーターを演じることになっています。

ミュージカルは一人ではできません。みんなが協力して努力しないとできません。今年も私は自分でできる全力を出し切ってがんばります。

いつも宍粟市少年少女合唱団をあたたかく支えてくださる先生方、家族、そして地域のみなさん。今まで本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願いします。

今年の正月、A君から頂いた年賀状に開幕の格言の一節である「慎勿輕速」が書かれており、「この教えは人生百般にも通じる『名言』です。私も実践を心掛けたいと思います。」と書き添えてあった。実は私も、今年の年賀状のうち開幕仲間の方に対しても同じく格言の別の一節「不得貪勝」を書き、この教えを実践したいものだと添え書きした。なんと、今回はA君も私も開幕の格言を選んで格言がバッティングしてしまったのである。

A君とは昔から会社の同僚で仲良しだった。特に会社の昼休みに、二人とも下手クソな碁をバタバタと盤上で争い、慌しく勝った負けたの碁仇き同志であった。

あれからウン十年、お互に歳をとって碁の中味も多少マシになったかと思うが、日常的に碁のことが頭から離れないという変な習性が身に付いてしまったのだろう、年賀状に

## 「開幕十訣」

開幕同好会

三宅 哲朗

同時に開幕格言を持ち出すなど偶然とはいえおかしな話であり、さすがにかつての碁仇き同志、考えることも似た者同志だったかと、かえって嬉しいような懐かしさを覚えた。

そこで遅ればせながら、上述の四文字格言について説明しておきたい。

この二つの格言はいずれも昔からある有名な「開幕十訣」からの出典である。十訣は第一から第十まであり、「慎勿輕速」はそのうちの第七である。直訳すれば「足早になりすぎるのは慎め」であり、打った石が先走るとあととの反動がきついから気をつけなさいという戒めである。また、「不得貪勝」は十訣の第一であり「むさぼれば勝を得ず」つまり欲深く儲けようとするとかえって勝負に勝てないと諭しているのである。

この二つ、結局意味するところがよく似ている。A君は、これを開幕の格言に止まらず「人生百般にも通じる『名言』である」としたわけだ。たしかにこの二つ、いうなれば人生の処世術というか人生訓として読み替えることもできると思うのである。だから、碁をおやりにならない方もこの格言を参考にされては如何かと思う次第。

# 山崎いさわ

## 冠句会

中瀬公三選

|                                    |                                  |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 日本晴れ 賞を目指して励む歌<br>ネジを巻く 気合を入れて立つ寝床 | 日本晴れ 元気に走る三世代<br>ネジを巻く もう少しだよ定年が |
| 東田鶴子                               | 高井玲依                             |
| 日本晴れ 天へ弾ける児らの声<br>ネジを巻く 痛む足腰筋トレー   | 内海喜代子                            |
| 日本晴れ 夢の一時を手に入れて<br>ネジを巻く 勢いつけて老いの坂 | 宇田幸夫                             |
| 日本晴れ 登った山々遠く見え<br>ネジを巻く 六十路半ばもこれから | 大谷志路                             |
| 日本晴れ 心の憂さは何処へやら<br>ネジを巻く シニア大学一年生  | 大槻浩美                             |
| 日本晴れ ふる里恋し山登り<br>ネジを巻く 過去を未来に置き換えて | 坂本忠彦                             |
| 日本晴れ つい歌も出る散歩道<br>ネジを巻く 目ざめ悪さに活入れる | 実友勉                              |
| 日本晴れ 国見の森が沸いている<br>ネジを巻く 時計の音が懐かしく | 嶋津千里                             |

日本晴れ 子等の歓声高らかに  
ネジを巻く 座禅を組みて無に帰る

高井玲依

# 川柳破丸会

清水省三

|                                       |                                     |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 日本晴れ 泣いてなんてはいられない<br>ネジを巻く 過去の日々捨て新天地 | 日本晴れ 快気祝いの澄みし朝<br>ネジを巻く じわじわ緩む老いの日々 |
| 谷笛まや                                  | 中務淑子                                |
| 日本晴れ 笑顔が戻る苦境から<br>ネジを巻く 形見の時計コチコチと    | 成影廣子                                |
| 日本晴れ 人の心もさわやかに<br>ネジを巻く ボンボン時計がなつかしく  | 中瀬公三                                |
| 日本晴れ 気分爽快朝日浴び<br>ネジを巻く 足腰鍛え六十路坂       | 西川少升                                |
| 日本晴れ 頭を上げて深呼吸<br>ネジを巻く 自分に勝てと励まして     | 花は咲く                                |
| 日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ<br>ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水    | 病院へ                                 |
| 日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる<br>ネジを巻く 時計の音が懐かしく    | 表札は                                 |
| 日本晴れ 国見の森が沸いている<br>ネジを巻く 時計の音が懐かしく    | 鬼は外                                 |
| 実友勉                                   | 山口定子                                |
| 嶋津千里                                  | 妻の目は                                |

日本晴れ 子等の歓声高らかに  
ネジを巻く 座禅を組みて無に帰る

高井玲依

日本晴れ 泣いてなんてはいられない  
ネジを巻く 過去の日々捨て新天地

高井玲依

清水省三

日本晴れ 快気祝いの澄みし朝  
ネジを巻く じわじわ緩む老いの日々

高井玲依

日本晴れ 笑顔が戻る苦境から  
ネジを巻く 形見の時計コチコチと

高井玲依

日本晴れ 人の心もさわやかに  
ネジを巻く ボンボン時計がなつかしく

高井玲依

日本晴れ 気分爽快朝日浴び  
ネジを巻く 足腰鍛え六十路坂

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 国見の森が沸いている  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 笑顔が戻る苦境から  
ネジを巻く 形見の時計コチコチと

高井玲依

日本晴れ 人の心もさわやかに  
ネジを巻く ボンボン時計がなつかしく

高井玲依

日本晴れ 気分爽快朝日浴び  
ネジを巻く 足腰鍛え六十路坂

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 笑顔が戻る苦境から  
ネジを巻く 形見の時計コチコチと

高井玲依

日本晴れ 人の心もさわやかに  
ネジを巻く ボンボン時計がなつかしく

高井玲依

日本晴れ 気分爽快朝日浴び  
ネジを巻く 足腰鍛え六十路坂

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

日本晴れ 頭を上げて深呼吸  
ネジを巻く 自分に勝てと励まして

高井玲依

日本晴れ 足どり軽く氣も浮かれ  
ネジを巻く 五臓六腑に目覚め水

高井玲依

日本晴れ 目ざめ悪さに活入れる  
ネジを巻く 時計の音が懐かしく

高井玲依

# 第三十七回春の芸能祭ご案内

日 時 平成二十八年五月十五日（日）午前十時から

場 所 山崎文化会館 大ホール  
主 催 春の芸能祭実行委員会・  
(財)宍粟市文化振興財団

後 援 宍粟市・宍粟市教育委員会・  
宍粟市文化協会・宍粟市山崎文化協会

山崎文化協会の参加団体が中心となって、会員の皆様の日頃の練習の成果を発表いたします。一宮・波賀・千種からも贊助出演していただく予定をしています。  
多くの皆様のご鑑賞とご声援をいただきますようよろしくお願ひいたします。

今年度の出演予定団体をご紹介します。

- |   |                                 |                |   |                   |                |
|---|---------------------------------|----------------|---|-------------------|----------------|
| □邦 楽 山崎竹壮会・司友会・光陽会・琴泉菖蒲会・絵夢の会・藤の会・姫路正絃社波賀教室 | □邦 舞 郁踊会・春陽会・むらさき会・千代の会・美藤会・若松会 | □民 踊 さつき民踊グループ | □詩舞道 賀堂流篠乃丸吟詠会・紫洲流日本明吟会・吟道撰楠流宍粟吟詠会・冠翔流扇翔会・早渕流大日本敬天社本部道場山崎支部 | □民謡 山崎民謡連合会・波賀民謡会 | □日本舞踊 山崎日本舞踊の会 |
|---|---------------------------------|----------------|---|-------------------|----------------|



# 宍粟市山崎文化協会

## 役員及び団体名

|       |            |             |             |
|-------|------------|-------------|-------------|
| 会長    | 福岡 久藏      | 宇田 幸夫       | 山崎いさわ冠句会    |
| 副会長   | 伊野 操治      | 前田 幸子       | 山崎かるた同好会    |
| 理事    | 宗平 道三      | 菅原 淳        | 監事 前野 洋一    |
| 里見 省三 | 大谷 司郎      | 事務局長        | 事務局次長 伊藤 次郎 |
| 鳥越 良造 | 中澤ゆかり      | 会計          | (敬称略・順不同)   |
| 下村 巨茂 | 山崎郷土研究会    | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 浅田 耕三 | 新潮会        | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 森本萬千子 | 山崎歌人協会     | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 竹添 和彦 | 山崎開拓同好会    | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 大西 耕雲 | 宍粟茶華道協会    | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 三谷 恭三 | 山崎謡曲同好会    | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 実友 雅男 | 山崎郷土芸能保存会  | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 野村 和男 | 昭和会        | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 年綱三香子 | 宍粟市少年少女合唱團 | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 秋久 光子 | 山崎俳句協会     | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 西川 廉子 | さつき民踊グループ  | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 福岡 久藏 | 山崎美術協会     | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 石野 和雄 | 山崎邦楽の会     | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 中谷 多江 | 宍粟日本舞踊の会   | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 川原 勝典 | 山崎詩舞道連盟    | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 中野 剛志 | 山崎町民合唱団    | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 藤永 幸正 | 審査太鼓アーチ俱樂部 | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 前野 良造 | 平成会        | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 石田 陽子 | 山崎民謡連合会    | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |
| 清水 省三 | 川柳破丸会      | 会計 中澤ゆかり    | 事務局長 大谷 司郎  |
| 志水    | ターンアートクラブ  | 事務局次長 伊藤 次郎 | 監事 前野 洋一    |

「ワソ」という低域のこもり気味の調整、「ツウ」は子音の吹かれ状態を調整することであることを教えていただきました。

その昔、アメリカのラジオ局が同じようなマイクテストに『It's fine today』という言葉でしていたようです。この短い言葉には同じように周波数帯域が広くチェックするには適切な声音の要素が含まれていると言われています。日本では皆さんよく聞き覚えがある「本日ハ晴天ナリ」という言葉です。当時日本のラジオ局で使われていたようですが、ただ残念なことにこの「本日ハ晴天ナリ」の日本語には周波数帯域が狭くマイクテストには満足な要素が入っていないのです。なんだか思いだし笑いをしてしまいます。最後にマイクテストには「フーッ」と強く吹いたり、叩くのはマナー違反です。マイクやスピーカーが壊れてしまいます。ご注意ください。

事務局次長 伊藤 次郎

私は前より音響について興味を持つており、特にテレビや舞台に使われているマイクのメーカーや機種について見るにつけ、若い頃、自分でも貯金をはたいて音響のシステムを揃えて楽しんでいた頃がありました。当時音響のプロの方がマイクテストをされており、これは「チェック」という強い音圧と高い周波数と子音、

## 「やまさき文化」編集委員 事務局だより

### 「本日ハ晴天ナリ」

私は前より音響について興味を持つており、特にテレビや舞台に使われているマイクのメーカーや機種について見るにつけ、若い頃、自分でも貯金をはたいて音響のシステムを揃えて楽しんでいた頃がありました。当時音響のプロの方がマイクテストをされており、これは「チェック」という強い音圧と高い周波数と子音、

編集長 清水 省三  
委員 浅田 耕三  
鎌田 裕明  
秋久 光子  
下村 悅子  
荒木 俊介  
前野 良造  
森本萬千子  
小西 美穂

## 「やまさき文化」編集委員

(敬称略・順不同)

監事 前野 洋一  
菅原 淳  
事務局長 大谷 司郎  
事務局次長 伊藤 次郎  
会計 中澤ゆかり

宇田 幸夫 山崎いさわ冠句会  
前田 幸子 山崎かるた同好会  
菅原 淳  
大谷 司郎  
伊藤 次郎  
中澤ゆかり

「ワソ」という低域のこもり気味の調整、「ツウ」は子音の吹かれ状態を調整することであることを教えていただきました。

その昔、アメリカのラジオ局が同じようなマイクテストに『It's fine today』という言葉でしていたようです。この短い言葉には同じように周波数帯域が広くチェックするには適切な声音の要素が含まれていると言われています。日本では皆さんよく聞き覚えがある「本日ハ晴天ナリ」という言葉です。当時日本のラジオ局で使われていたようですが、ただ残念なことにこの「本日ハ晴天ナリ」の日本語には周波数帯域が狭くマイクテストには満足な要素が入っていないのです。なんだか思いだし笑いをしてしまいます。最後にマイクテストには「フーッ」と強く吹いたり、叩くのはマナー違反です。マイクやスピーカーが壊れてしまいます。ご注意ください。

事務局次長 伊藤 次郎

私は前より音響について興味を持つており、特にテレビや舞台に使われているマイクのメーカーや機種について見るにつけ、若い頃、自分でも貯金をはたいて音響のシステムを揃えて楽しんでいた頃がありました。当時音響のプロの方がマイクテストをされており、これは「チェック」という強い音圧と高い周波数と子音、

今回、大先輩の荒木俊介さんが長年の文化活動の功績により、県から「ともしひの賞」を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

今号は浅田耕三さんが、紫式部源氏物語について面白い文章を書いてくださいました。

特別寄稿は県立山崎高校の野谷るり子校長さんが、お忙しい中、文化について貴重なご意見を書いていた

だきました。

本号も短歌、俳句など色々なジャンルの芸能・文化関係の方々の活動の記事があり、「やまさき文化」の名にふさわしい機関誌になりました。各寄稿者にお礼申し上げますとともに、今年も十分活躍されますよう期待いたします。

毎年のことですが、広告として寄附してくださる企業の方々に心より感謝申し上げます。

最後に、本文化協会の運営が円滑に行われているのも、事務局の方々のおかげと、感謝とともに報告いたします。

本年も、各部会、特に若い人、子どもさん達のご活躍を期待しております。

「やまさき文化」も今年で三十五号となりました。これも各先輩方の御努力の結果と感謝いたします。

## 編集後記

編集長 清水 省三



# カワカラ Specialty Camera Shop

■本店〒671-2576  
宍粟市山崎町鹿沢26-3  
TEL(0790)62-2089 FAX(0790)62-7429  
E-mail info@ko-e-1972.com

■咲ランド店/〒671-2545  
宍粟市山崎町中井10 咲ランドSC1F  
TEL・FAX(0790) 63-0533  
E-mail saki@ko-e-1972.com

デンソー指定サービスステーション  
自動車電装品整備・携帯電話代理店・レンタカー

# カメウ子電表株式会社

本社・工場 兵庫県宍粟市山崎町今宿 98-15  
TEL (0790) 62-1607代  
太子営業所・姫路営業所・たつの営業所・福崎

# ふじむら貸衣裳

人生の節目を飾る大切な一着を貴方に  
結婚式はもちろん成人式・卒業式・七五三  
また留袖や訪問着・喪服のご衣裳など  
豊富な品揃えでお客様をお待ちしています。



兵庫県宍粟市山崎町山崎181 Tel:0790-62-0052 <http://www.fujimura-kashiishou.com>

贈り物に…「しそう杉ボールペン&シャープペン」

三菱鉛筆「故郷（ふるさと）の木持ち」シリーズは、地球温暖化と地域材振興策に「少しでも役に立つ商品」をコンセプトに作られた筆記具です。全国の都道府県産のスギ、ヒノキ、ヒバ、マツ等に高度な木材の加工技術を施したもので、適度な重さが高級感を醸し出しています。兵庫県では「しそう杉」が選ばれています。「しそう杉」のはのかな香りをお楽しみ下さい。



¥1,800 + 税

さらにレーザー彫刻（オプション）であなただけの1本に…  
参加賞 記念品に… 一からフレーム入り各種あります

トクサヤ文具

山崎町山崎 180-1 TEL62-0067

# ほっと、ひといき 伊沢の里

○お祝いの会食      ○法要後の会食

その他各種宴会承ります

リラクゼーションルーム 好評稼働中

〒671-2517 宝冢市山崎町生谷214番地1 TEL0790 (63)1380

地域で最も信用・信頼される  
金融機関をめざして



●豊かな街づくりをお手伝いする●

# 西兵庫信用金庫

<http://www.shinkin.co.jp/nisisin/>

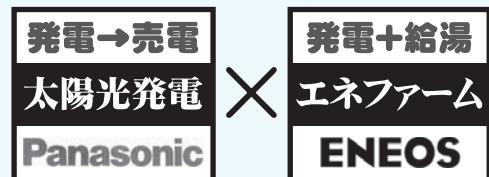
TEL 0790-62-2020



森の妖精/ネーチャ

森の妖精/サッキー

## 貴邸の電力を自給自足!



スマート&工芸な  
**「光熱費=ゼロ」リフォーム**

=お車と住まいの快適、なんなりと=

## ホンジョウ

(株)本條商店・ホンジョウプロパン(株)

本社 宍粟市山崎町中井 96

石油・タイヤ・洗車・オイル  
バッテリー・車両整備・保険

TEL 0790-62-4321

電気・ガス・水道工事・家電全般  
住宅リフォーム・太陽光発電

TEL 0790-63-1234

創業明治28年・さつき本舗



御菓子司 さつき

御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の  
真心こめた手づくりの御菓子を

山田店：播州山崎町山田（電）0790-62-0160

福崎店：福崎町西田原 1177（電）0790-22-7555

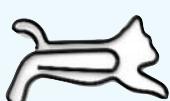


# ForGift

生活に、便利さと楽しさを！  
今文房具が人気です。

テレビで紹介された新しい文房具など

話題商品が続々入荷中！



## イトーオフィスサービス(株)

山崎町中広瀬 117-12 宍粟市役所南向い



NAGATA  
NAGATA GROUP

## 西兵庫トランスポーツ株式会社

本社 兵庫県宍粟市山崎町御名335-1

〒671-2554 TEL 0790-63-2007

FAX 0790-63-2007